



# ターム水溶剤

農林水産省登録 第22388号

1/3

平成27年2月4日現在

## 適用及び使用方法

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	1-ナフタレン酢酸を含む農薬の総使用回数	
温州みかん	摘果	500～1000倍	250～500ℓ/10a	一次生理落果発生期 (満開10～20日後)	1回	立木全面 散布又は 枝別散布	4回以内 (生理落果発 生期は1回以 内、生理落果 発生後は3回 以内)	
		1000～1500倍		二次生理落果発生期 (満開20～40日後)				
	夏秋梢 伸長抑制	1000～ 2000倍		新梢萌芽前 但し、 収穫前日まで	2～3回			
夏秋梢萌芽時 及び再萌芽時 但し、収穫前日まで				2回				
結果母枝 の充実、 着花促進								
かんきつ (温州みかんを除く)	摘果	1000～ 1500倍		生理落果発生期 (満開10～50日後)	1回		3回以内 (果実肥大期 は2回以内)	
	夏秋梢 伸長抑制	1000～ 2000倍		新梢萌芽時及び 再萌芽時 但し、収穫前日まで	2～3回			
	果実 肥大促進	4000～ 8000倍	果実肥大期 但し、収穫前日まで	2回				
	後期 落果防止	1000倍	果実着色期～ 収穫予定14日前	1～2回				
オリーブ (交互結実 栽培の非収 穫年樹)	全摘果	1500～ 2000倍	非収穫年の満開期	1回	散布	1回		



アグロ カネショウ株式会社

<http://www.agrokanesho.co.jp/>



## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤の所要量を所定量の水に希釈し、よくかき混ぜてから散布する。調製した薬液はその日の内に使用する。
- 本剤は植物ホルモン剤であり、散布条件によって薬効薬害に影響が現れやすいので他剤との混用はさける。また、アルカリ性農薬を本剤散布前後に近接散布することはさける。なお、マシン油乳剤を近接散布すると旧葉が落葉することがあるので注意する。
- 散布直後の降雨は効果が減ずる原因となるので、天候を見極めてから散布する。
- 過度の乾燥、着果負担などによって極端に樹勢の低下した樹では旧葉の落葉を助長するので本剤の使用をさける。
- 重複散布はさける。
- 温州みかんに使用する場合は次の事項に注意する。
  - ①摘果を目的に本剤を使用する場合は、一次生理落果発生期（満開10～20日後）または二次生理落果発生期（満開20～40日後）で合計1回とし、2回使用しない。
  - ②全摘果したい場合は樹全体に、部分的に全摘果したい場合は摘果したい部分のみに散布する。また、摘果効果を高めるために、気温が高くなることが予想される日に散布する。
  - ③間引き摘果の目的で使用する場合は、薬液が葉先から滴り落ちない程度にむらなく、樹冠上部にたっぷり、下部にうすく散布する。本剤による摘果が終了した後に仕上げ摘果を行い、品質の均一化や樹勢の維持に努める。なお、高温下（30℃以上）での散布または散布後に高温が2～3日続くと過摘果になる場合があるので、気象条件を見極めてから散布する。また、本剤散布の4～5日前または散布後4～5日の間にマシン油乳剤を近接散布すると過摘果になるのでさける。
  - ④結果母枝の充実、着花促進の目的で使用する場合は、施設栽培以外では使用しない。
- かんきつ（温州みかんを除く）に使用する場合は次の事項に注意する。
  - ①夏秋梢伸長抑制を目的に使用する場合は、果実糖度の低下や果皮色が劣る場合があるので、留意して使用する。
  - ②果実肥大促進を目的に使用する場合は、摘果直後の果実肥大期に使用する。
  - ③下記に記載した使用目的と作物の組み合わせ以外に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
    - ・「摘果：天草、伊予柑、清見、せとか、はるみ、湘南ゴールド、ポンカン、不知火、たまみ」
    - ・「夏秋梢伸長抑制：はるみ、ポンカン、天草、不知火」
    - ・「果実肥大促進：不知火」
    - ・「後期落果防止：河内晩柑」
- オリーブに使用する場合は次の事項に注意する。
  - ①交互結実栽培とは、意図的に全摘果を行い、翌年の着花・着果を促進させるものであり、収穫は隔年になる。本剤は非収穫年の全摘果の目的で使用する。
  - ②本剤処理後の残存果実及び結実後落下した果実は、適切に廃棄処理し、食用又は搾油に供しない。
  - ③本剤の処理により新梢が湾曲することがあるが、その後の生育への影響は認められていない。
- 極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにする。
- 使用後の散布器具等は十分洗浄する。
- 本剤は植物ホルモン剤であるので、使用に際して使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。





## 安全使用上の注意



- 誤食などのないように注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意する。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。  
使用後は洗眼する。
- 散布の際は農薬用マスクなどを着用する。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…該当なし

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して冷涼・乾燥した所。

PRTR法 ● 空袋は圃場などに放置せず適切に処理する。

